

にけーしよん

11/10 防火の輪を広げよう 御荘防火パレード

火災が発生しやすい季節を迎え、秋の全国火災予防運動に合わせて町全体に防火の輪を広げようと、御荘保育所幼年消防クラブや平城小学校少年消防クラブ、同校バトン・トランペット鼓隊など約180名が参加して御荘防火パレードを実施しました。

幼年消防クラブの園児たちが「火遊びはしません」と、また少年消防クラブの児童たちは「火災をなくし、すばらしい私たちの町を守ります」と元気よく防火の誓いを述べた後、御荘支所から御荘夢創造館までの約1kmをパレードしながら、道行く人などに火の用心を呼びかけました。



11/11 ふるさと一本松祭

広見地区の田園を主会場にして開催が予定されていた「第7回ふるさと一本松祭」は、当日の荒天により、会場を一本松交流促進センターに移して行われました。天候には恵まれませんでしたが、愛媛県出身のシンガーソングライターのレーモンド松屋さんのライブや南宇和高校吹奏楽部の演奏で会場は熱気に包まれ、最後は、恒例の餅まきで大いに盛り上がりました。

また、13日に順延された「闘牛」は、広見地区の田んぼに作られた特設土俵で闘牛の土俵入りや迫力の結びが行われました。



本日! うみびより海日和!! Vol.25 「愛南サンゴを守る会」

先日、「愛南サンゴを守る会」というボランティアグループが結成されました。この会の目的は、減少しつつある愛南町のサンゴを少しでも後世に残すことです。

愛南町のサンゴの減少には、水質の悪化、海水温の上昇、土砂の流入、オニヒトデの大発生など様々な要因が考えられます。抜本的な対策が必要ですが、現在できることは、サンゴを食べるオニヒトデや貝類を駆除するしかありません。人間にとって有用なサンゴだけを守るのは人間のわがままかもしれませんが、駆除以外に方法が見つからないのが現実です。

今後も、環境省や愛南町、愛媛大学南予水産研究センターなどの関係諸機関との連携を深めながら活動を続けていきたいと思っております。

(オニヒトデ 野地島)愛南サンゴを守る会 西尾知照



オニヒトデと食べられたサンゴ

愛南こみゆ

10/20 愛南アンサンブル

御荘文化センターで、御荘平城出身のコントラバス奏者、吉本宗司さんによる「愛南アンサンブル」が開催されました。「アンサンブル」とは、フランス語で統一、調和を意味する言葉で、『愛南の皆様と一体になれるように』との主催者の思いが込められ、前年までの「サロンコンサート」から名称を変更しての開催となりました。

ほぼ満席となった会場は、ヴァイオリンやチェロ、バンドネオンなどの生演奏の迫力に包まれ、来場者は美しい音色に聴き入っていました。



吉本宗司さん▶

10/27 西日本屈指の漁場で釣り勝負

西日本屈指の漁場、西海・内海地区海域で、今年で7回目となる「あいなん磯釣り大会2012」が行われ、県内外から数多くの釣り愛好者が参加して腕を競い合いました。この大会は、愛南マリニイベント実行委員会と中泊・西海南部・内海の各渡船組合などによって、国内有数の釣りポイントが多い愛南町をPRしようと毎年開催されています。

大会は、グレ長寸の部、同重量の部(3匹の合計)、他魚の部、レディースの部で行われましたが、今年は残念ながら、本町から入賞者がでませんでした。



グレ長寸の部入賞者 写真中央が52.0cmで優勝した村岡正志さん(岡山県)

10/30 癒しの果実でお接待

NPO法人 遍路とおもてなしのネットワーク(高松市 松岡敬文事務局長)と南宇和高校農業クラブが、お遍路さんへのお接待の気持ちを含め、歩き遍路さんが水分・栄養補給をし、疲れを癒してもらえるようにと遍路道沿いに「接待木」の植樹を行いました。

愛南町で初めての定植となる「接待木」は河内晩かんと甘夏の計10本で、八幡神社前の植樹帯に苗木が植えられ、今後、同クラブ員が水やりなど管理を行います。

植樹に先立ち行われた植樹式では、同クラブの副会長を務める吉良薫さん(同校3年)が「お遍路さんの渴いたのどを潤すことができるように、1日も早く実をつけてほしい」と



11/9 ドングリから木を育てよう

ドングリから木を育てようと東海小学校の5、6年生12名がドングリを採集しました。B&G財団による「海を守る植樹教育事業」の一環として実施されたもので、児童は、町の木「ウバメガシ」が多く生育する岩水地区の住吉神社などで、合計1,236個のドングリを集めました。この日、一番多くのドングリを拾った亀井隆貴くん(5年)は、「芽が出るのが楽しみ」と半年後の出芽を心待ちにしている様子でした。

また、16日には、採集したドングリの播きつけが行われました。出芽し、成長した苗は、御荘B&G海洋センターに植樹される予定です。

